

授業科目名	劇場プロデュース実習 2	担当教員	近藤 のぞみ 藤野 一夫 尾西 教彰 井原 麗奈
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	3 年第 2 クォーター		
講義内容	<p>劇場現場での実務を通じて、芸術・文化に対する理解を深めるとともに、企画制作、広報・宣伝、地域との関わりなど、劇場・音楽堂等のソフト運営における基礎となる要素を体得し、劇場運営に関わる職業能力を修得する。</p> <p>劇場プロデュース実習 1 の続編となり、劇場現場における仕事をこなすだけでなく、社会において劇場が存在する意味を考えながら、劇場ができることを企画し提案できる視点を養う。</p>		
到達目標	<p>①劇場の業務を実際に行うことができる ②その劇場を使う際のお客様との基本的な打ち合わせ内容を理解し、実施することができる ③劇場のプログラムや役割を理解し、劇場関係者や来場者と適切なコミュニケーションをとることができる ④その劇場と地域との関係を観察し、企画を立てることができる</p>		
授業計画	<p>舞台設備のある文化施設で、約 2 週間の臨地実務実習を行う。</p> <p>実習前の事前学習として、実習施設を調査し、実習計画書を作成、実習計画書を基に専任教員と学生が面談を行う。</p> <p>実習中は、実習指導者のもと、実際の劇場制作業務に従事し、専門スタッフによるレクチャーを受けることによって、劇場にとってのミッションを理解し、劇場運営の基本を習得する。</p> <p>中間時点及び最終日には、学生による報告会を実施するほか、最終日には劇場施設長等との意見交換会を実施する。</p> <p>事後学習として、学生は実習成果報告書を作成し、報告会で発表を行い、劇場制作業務の実践への理解を深めるように、専任教員による助言・指導を行う。</p>		
事前・事後学習	参加する学生は必ず事前研修を受け、事後に実習成果の報告書を作成し、終了報告会において発表を行うこと。		
テキスト	特になし。		
参考文献	適宜指示する。		
成績評価の基準	実習の態度・日誌 (70%)、実習報告レポート・プレゼン (30%)		
履修上の注意 履修要件	<p>全日程に出席できることを参加条件とする。</p> <p>1 日の実働時間は 8 時間 (休憩 1 時間を含む) を基本とする。</p> <p>劇場現場の性格上、業務の必要に応じて変則時間となる場合がある。</p> <p>※具体的なスケジュールは、劇場担当スタッフと相談の上、後日確定する。</p>		
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。		

備考欄	<p>実習受入先の受け入れ人数を越える履修希望者があった場合は、説明会の後に提出を求める「志望理由書」を元に選考して履修者を決定する。</p> <p>尾西 (n_onishi*stdat.at-hyogo.ac.jp) 近藤 (nozomi_kondo*stdat.at-hyogo.ac.jp) 井原 (i.rena*stdat.at-hyogo.ac.jp) [*を@に変更]</p>
-----	--